

令和3年度第2回平塚市病院運営審議会議事録

日 時	令和3年12月16日(木) 14:00~15:30
場 所	平塚市民病院 本館2階 大会議室
出席委員	久保田会長、簗島副会長、上野委員、出村委員、亀井委員、兵藤委員、鈴木委員 以上7名
欠席委員	長岡委員(オブザーバー参加で保健福祉事務所 一倉企画調整課長)、竹末委員、今井委員、正木委員
事務局	石原病院事業管理者、山田病院長、厚川副病院長、松原副病院長、中川副病院長、本谷副病院長兼看護部長、三田副病院長兼事務局長、石井感染対策室長、相澤経営企画課長、野上病院総務課長、田丸医事課長、千葉経営企画情報担当長、高梨財務担当長、芦野地域連携担当長、経営企画情報担当主査
傍聴者	1名

1 開会(副病院長兼事務局長)

○病院事業管理者のあいさつ

病院事業管理者の石原でございます。今年も残りわずかとなってまいりました。コロナ禍で通常とは違う状況でした。ここにきて変異株の発生で来年も見通しが分からなくなってきたという状況であります。今日は大変お忙しい中、当院の病院運営審議会にお集まりいただきどうもありがとうございました。今日の主な議題は、「平塚市民病院 Future Vision 2017-2025(改訂版)」の外部点検ということですので、よろしくお願いたします。平塚市民病院 Future Vision は、私も読ませていただきましたが、当初できたのが平成29年3月です。2017年~2025年とカバーする範囲が結構長く、途中で見直しということで、令和3年2月に中間の改訂をしております。改訂時、コロナも発生していたため多少は頭書きに書いてありますが、外部点検を是非よろしくお願いたします。

私としては、先ほども言いましたように、コロナの先行きが見通せない状況ですので、そこも踏まえて今後、プランを変えて、実際にやるべきことを載せていきたいところもありますが、今回はプランに則ったかたちで点検をよろしくお願いたします。

2 議事

(司会)

ここからの進行は久保田会長にお願いいたします。久保田会長よろしくお願いたします。

(会長)

皆さんこんにちは。久保田でございます。第2回の市民病院運営審議会に出席いただきましてありがとうございます。先ほど石原先生からお話がありましたけれども、コロナが一時収束していますが、第6波に向けて各自治体、各病院間等で対応しているところ

ろであります。そのような中で市民病院の Future Vision についての点検をさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議題1の令和3年度上半期の実績について事務局から説明をお願いいたします。

(経営企画課長)

上半期実績の説明の前に、新型コロナウイルスに2年近く我々は対応しています。皆様に平塚市民病院が新型コロナウイルスに対してどのような対応を行ってきたのかお話しさせていただきたいと思います。まず初めに病院長が病院の対応についてお話しさせていただき、感染対策の看護師から具体的な説明となります。よろしくお願いいたします。

○病院長より当院における新型コロナウイルスに対する対応を説明

○石井感染対策室長より当院における感染症対策について説明

(経営企画課長)

平塚市民病院のこれまでの対応について、何かご意見、ご質問がありましたらお願いします。

(兵藤委員)

市民病院のコロナ対応については、特別病室が設けられたということくらいしか知らなくて、どのようなことをやっているのかは、興味があるけど知り得ない状況でした。今、話を聞いて「大変だな」と実感したわけですが、それであればなおさらのこと許される範囲で広報していただいた方が、市民も市民病院に対する考え方が変わってくるのではないかと思います。

(鈴木委員)

市民病院が多分コロナ受入れをしているだろうというくらいの認識しかありませんでした。仕事の関係で山岳救助に携わっていますが、へりに渡すまでが救助です。長野の事例で見ると松本市内の病院にへりで搬送されて、コロナ陽性となると後が大変になります。へりのクルーが経過期間待機となってしまい、ローテーションができなくなってしまいます。山小屋などでもキャパシティを3分の1、4分の1に減らして、採算が取れないくらいの状況でやっています。医師、看護師含めてかなり大変だったと思います。

(一倉オブザーバー)

昨年度からこの地域の大きな病院とコロナについて情報提供しあう「コロナ懇談会」という場を設けさせていただいて、今も不定期ですが、トピックがあると集まり、コロナの対応について、病院の役割分担などの意思確認をさせていただいています。

コロナの初期には、私は県庁のコロナ対応の部署にいましたが、マスクも防護服もなく、要望があっても調達が難しい状況で、病院ではレインコートなどで凌いでいただいたことを思い出しました。これまで、感染症対応については、日本全体でそれほど取り

組んできていなかった部分もありますが、日頃からの準備が必要なのは、災害と同じであると感じています。

(亀井委員)

院内感染が横浜、県西、県央などでありました。院内感染を起こさずにきちんとできているのは、医師、看護師、事務も含めてあらゆる職種が連携し、医療の質によりできていることを改めて実感しました。院内で当たり前に行っていることを地域としてどのように支えていくのかを考えないといけないと感じています。兵藤委員、鈴木委員もおっしゃっていましたが、市民の方に何らかの形で届くようにしないといけないと思います。

(経営企画課長)

コロナ対応をしている中での病院の実績について経営企画課長の相澤からお話させていただきたいと思います。

資料1 令和3(2021)年度上半期実績について

資料2 収益計画等の現状と目標値

資料3 将来構想「平塚市民病院 Future Vision 2017-2025 (改訂版)」の令和3年度中間評価について

資料4 平成29年—令和3年度 将来構想開始後の平塚市民病院の主な取組に基づき説明

(会長)

ありがとうございました。議題に入る前に山田病院長から市民病院のコロナ対応や救急対応について細かく説明していただきました。石井さんからは感染対応について分かりやすく説明していただきありがとうございました。

私も地域で診療を行っていると、今までの公的な病院は待ちの医療、待っている医療と考えられていましたが、この取組を見ると市民病院は待つ医療から攻める医療に変わっているとつくづく思います。実際、DMATやワークステーションもあり、医療的教育も地域に出てやっています。今後も積極的にもっと攻めていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

前もってお送りした資料を基に、今のパワーポイントの説明も含めて委員の先生方からお話をいただきたいと思いますがいかがでしょうか。亀井委員どうぞ。

(亀井委員)

ありがとうございます。久保田先生もおっしゃるように、待ちではなく攻めることが基本ではないかと思いました。その中で自己点検に記載されたこと、院長のコメント、事業管理者のコメント、さらに資料1の15、16ページにある「選ばれる病院を目指して」は極めて重要であり、方向性はそのとおりだろうと思います。冒頭、管理者の石原さんからお話がありましたが、医療の質をさらに高めていくということが極めて重要です。先ほど山田病院長からご説明いただいた一連のコロナ対応や救急医療なども含め

て、医療の質をいかに高めていくのかをより具体化していくことが重要だと思います。これもまた冒頭、石原さんからお話がありましたが、Future Visionの期間が長く、見直しをするところは見直したいという話がありました。相澤さんにご説明いただいた資料1の15、16ページで具体的にやるべきことが見えてきているので、具体的なKPIに落とし込んで良いと、改めて思ったところです。前回の審議会でも、KPIを追加したり、変えても良いのではないかとお話をさせていただいたと記憶しています。患者さんの立場に立って医療の質が改善しているとなるように積極的に病院から提案していただけると運営審議会で議論ができるのではないかと思います。

(会長)

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

(上野委員)

先ほどコロナに対する2年間の活動、闘いを聞かせていただきました。私も思い起こせば市民の方から「アルコールがあるんだけど市民病院に届けさせていただけませんか」とお声をいただき橋渡しをさせていただいたことを思い出しました。マスクも手に入らず苦しい中で診療を最前線で続けられたというご苦勞を垣間見ることができました。本当に感謝しております。

資料3の自己点検の中で、「新入院患者の確保とDPCの入院期間を意識した在院日数を再認識し、重点的に取り組むことにしました」とあります。専門家ではないので詳しいことは分かりませんが、DPCを意識して取り組むことによって、平均在院日数が短縮し、入院診療単価の増加につながったと書かれているのですが、こちらについて市民にも分かるように説明をいただきたいと思います。

(病院事業管理者)

DPCというのは診断群分類であり、診断と処置・手術・検査等を組み合わせたものです。基本的には標準化が念頭にありますので、全国でどういった治療がなされているのかが大事な指標になります。入院期間を期間尺度と言っていますが、全国のDPCに参加している病院のある一定の診断群に対する平均在院日数は、統計を取ればすぐに分かります。ある疾患の平均在院日数が1週間である場合、1週間より短く治療ができていた病院があるとすると、それは効率的な治療がなされていたと判断されるわけです。DPC上は平均的な在院日数までの点数は比較的保たれていますが、それよりも長くなると単価がかなり低く設定されます。この疾患であれば全国の平均在院日数が何日ということ意識して当院の入院期間は適正なのかどうかということ今年もう少ししっかりチェックしているということです。100人患者さんがいて100人ともそこに収まるというのはあり得ないです。個別の理由で延びる方もいらっしゃいますので、一部は必ずその中に収まらないわけですが、病院全体としてこの規模の急性期病院であれば何%くらいは平均の入院期間に収まるべきという目標値がありますので、そこを意識していることです。これが病院全体として収まると単価は上がりますが、今までよりも患者さんは早く退院されるということになりますので、入院患者数が同じだと稼働率は当

然下がっていきます。ですから、期間尺度をきちんと理解した上で、新入院患者数の確保を今年は目標にしようということを言っています。

(上野委員)

ありがとうございます。丁寧にご説明いただきました。医療の質をしっかりと高めていくことによって、入院日数も最短にして、効率を上げていると理解させていただきました。一方で患者さんからすると今まで長く入院していたのに早く退院してしまうように変わるので、治療を受けた患者さんの声はどうか、不満につながっていないのかというところもしっかりと見ていく必要があると思います。そこの考えはいかがでしょうか。

(病院事業管理者)

ありがとうございます。今おっしゃったことは、昔ながらのやり方をしていくと確かにそのとおりです。患者さんがそもそもいつ帰る予定なのかご本人も家族も分かっていないなるべく今の病院で最後まで、落ち着くまで診てほしいとなってしまいます。急性期病院は、入院したら大体当院で診る期間はこのくらいと設定します。それ以上にフォローが必要な場合はこういう病院と連携をしています。あるいはご自宅に帰ってフォローを続けますということを入院前から説明していないと今おっしゃったようなことが起きます。今年からPFMと言いますが入院前から患者さん、ご家族にそのへんをしっかりと説明する仕組みをもう少し構築しようとしています。

(上野委員)

ありがとうございました。地域医療連携と相性が良い取組と思われましたので今後ともしっかりと続けていただきたいと思います。

(会長)

他にいかがでしょうか。出村委員いかがでしょうか。

(出村委員)

ダイヤモンドプリンセスの映像が国民、平塚市民にも届きました。そこから平塚市民病院に患者さんが搬送されているということは全然分かりませんでした。お尋ねしたがどなたも教えてくれませんでした。ある時期から平塚市民病院の入院患者数について、オープンになってきました。

入院患者数を増やすと先ほどからご説明を頂戴しているわけで、しっかりと整理をして最低でも市民の皆さんに「コロナ対応ではこうだった。市民病院も大変な努力をしてきた。」と許される広報は差し支えないと思います。

積極的に入院患者を右肩上がりしていきたいという中で、コロナの対応があるから入院をさせない、手術の時期も遅らせるということが、この1、2年の中ではあったのではないかと思います。一連の説明できる話を市民の方に可能であれば情報提供をしていただいて、平塚市民病院はウェルカムな状態とお知らせすることが必要ではないか

と考えます。

資料の中で病院事業管理者と病院長がコメントしている課題をどう乗り切るのか大変心配しています。ドクターの確保にずっと苦勞されていらっしゃる。色々なつてはあるとしても医師、看護師の確保が大変厳しいと資料の中で謳われています。言葉でいうほど簡単ではないと思いますが、具体的な取組があればお聞かせください。

選ばれる病院を目指して右肩上がりにするんだと私は受け止めますが、その場合患者さんに来てもらわなければ困るわけです。この資料に目を通させていただき市民にウエルカムな状態であることをアピールすることが必要ではないかと思い、質問させていただいた次第でございます。

最初に申し上げなければならなかったことですが、このコロナ禍において病院事業管理者から医師、看護師、医療関係者の皆さん本当に感謝でいっぱいでございます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

(会長)

コロナの情報に関しては当初非公開でした。平塚市のPCR検査についても県の方から非公開とされました。どこの場所に設置するかも出しておりません。かなりの制約の中で皆さんがコロナ対応したということはご了承いただきたいと思います。それから徐々に変わってきたと思いますが、事務局はいかがでしょうか。

(病院事業管理者)

久保田先生がおっしゃっていただいたとおりです。情報公開のあり方というのは、私は非常に問題があると思っています。実際、色々なところでもう少し正確な情報を提供すべきだと私は常に言っております。ただ、あの写真をご覧になって分かると思いますが、最初にダイヤモンドプリンセスから患者さんが運ばれてきたときに、職員はブルーシートを持っていました。あの当時私は、横浜市立市民病院にいましたが、マスクミが外にいっぱいいるところに患者さんが運ばれてきました。職員が救急車の周りにブルーシートを持って、何人も患者さんに近いところに立っているわけです。普通は防護具を着ますが、職員は手袋をしてブルーシートです。なぜこのようなことが起きたのかというと、政府から個人情報の保護をしっかりとやってくれという通知があり、そこから、個人情報が入りに漏れないということが最初にインプットされたため、情報がなかなか外に出せませんでした。PCR検査にしてもそうです。これは行政検査でしたので、ある程度大きな病院では、中すべきだったし、できたのですが、やっていることは当初出せませんでした。そういう事情はお分かりいただきたいと思います。今後は色々なかたちで、病院間あるいは医療機関同士で、もっともっと情報共有をすべきだと思いますが、医療機関によって設立母体が色々異なりますし、公立ばかりではありませんので、皆さん色々な思いがあって難しい面があるということも承知しております。その中で、市民病院がどのようなことをやっているのか、市民の方に分かっていたく情報提供のあり方をしっかりと考えていきたいと思っています。

経営面からいうと、コロナにより、急性期病院の経営は非常に厳しくなっていて、特に地方では複合的な問題であります。医療提供者の確保をはじめ、働き方改革の対応に

コロナがきたので、全ての問題が急激に露呈したということです。今起きている問題は、補助金で穴埋めされていますが、これがなくなったらどこもひどい状況になるということです。問題点を1つずつ改善していくしかないと思っています。

(病院長)

1点追加しますが、今ご指摘を受けたとおりで、そろそろ公開すべき時期ではなかろうかと考えています。コロナ以外の一般診療も安全に行われているということを市民の方々に分かっていただくために、個人的にはこういう場だけではなく、コロナの状況で許されるか分かりませんが、一般の方を対象にした今のような取組を是非やりたいと思います。苦勞しているのは我々だけではなく、救急隊員の方や薬局の方、医師会の方、保健所の方、皆苦勞しているので、市に働きかけて、この2年間どのように平塚市が取り組んだかを是非公開する場を作っていただければ良いと思います。市民病院だけでやってというわけではないので、是非そういう場を作っていただきたいと思っています。

(病院事業管理者)

全国で10%くらい新入院患者が落ちている表がありました。当院は15%くらい落ちています。地域差があり、神奈川は15%くらいで全国の中では影響が大きかった県です。その中で当院も同様に落ちているということです。

(病院長)

医師の確保に関しては、私が外回りの営業マンのように色々なところに出向いて宣伝して来ていただくという道しかありません。もちろん、外部の業者に委託して人材を紹介していただくというような努力はしておりますが、お金もたくさん取られますし、地道にやっております。この3年間でやっと少し光が見えてきたという状況です。あまり公開はできませんが、当院は内科系の医師数が厳しい状況の中で、来年度は呼吸器内科や神経内科などに少し希望の光が見えてきたというところです。神奈川県内だけでも全ての大学の教授にお会いしていますし、来週は千葉大学に伺う予定にしておりますが、年間にすると60から70人のところに伺っています。

(経営企画課長)

取組は先ほど申し上げましたが、出村委員が言われたように病院がどういう取組をしているのかが分かりづらいし、門をふさいでいるのではないかとされている可能性があるわけですが。先ほど市民代表の委員にもどのように思われているか伺いましたが、そういったところが事業管理者、病院長が心配しているところでありまして、ちゃんとした情報を皆さんにお知らせして、しっかりと病院は患者さんを受け入れるということを広報していこうと頑張っております。

(出村委員)

ありがとうございました。

(会長)

私から意見をさせていただきます。第6波に向けて国はコロナ病床を2割から3割増やそうとしています。当然、医師の数、看護師の数を充足させないと難しいことが考えられるのですが、それについての対応はいかがでしょうか。今、内科の医師が少ないということで対応できるか危惧しているのですがいかがでしょうか。

(病院長)

第6波を想定して県がステージをもう1つ上に作っています。以前、県から、どこまで上げられるかというアンケートが来たことがありました。どちらかというところ平塚は、この地域を守るという意味ではベッドの数が充足していると恐らく県も認識しているのか、第6波でベッドをもっと作れというようなことは言われませんでした。ステージ5でも今申告している最高のベッド数のままで良いと県から意見をいただいたので、久保田会長がおっしゃられたように2割、3割増やすのかというところ増やす予定はありません。ドクターも看護師ももっといっぱいほしいですが、今のところは第5波の時と同じような運営でいくつもりです。

(会長)

分かりました。ありがとうございます。選ばれる病院を目指してのところに職場環境の整備と働き方改革という項目がありますが、2024年以降の年間の上限時間が政府で決定されています。それも含めて人員確保が重要になってくると思いますので、よろしくお願いたします。

他にいかがでしょうか。将来構想につきましては以上でよろしいでしょうか。

続きまして、次第3「地域医療支援病院の承認要件報告について」事務局から説明をお願いします。

(医事課 芦野地域連携担当長)

医事課地域連携担当長の芦野と申します。よろしくお願いたします。資料5についてご報告いたします。

資料5 地域医療支援病院の承認要件報告

に基づき説明

(会長)

ありがとうございます。只今事務局から地域医療支援病院の承認要件報告がありましたが、何かご意見、ご質問等あればお受けいたしますがいかがでしょうか。

引き続きまして、次第の4その他について事務局からよろしくお願いたします。

(経営企画課長)

次回の運営審議会は7月頃を予定しています。内容は令和3年度の報告をさせていただきますのでよろしくお願いたします。

(会長)

これに関してはよろしいでしょうか。そのほか委員の方々から何かございますでしょうか。以上をもちまして予定の議事を終了とさせていただきます。皆様のご協力ありがとうございました。

(司会)

ご審議ありがとうございました。閉会にあたりまして山田病院長よりご挨拶申し上げます。

(病院長)

本日は長時間にわたり、年末で非常にお忙しいところですが、ご審議いただきまして本当にありがとうございます。ご指摘いただいたようなことを我々も心に留めて色々改善できるところは改善していきたいと思っておりますので、今後とも市民病院の後援を何卒よろしくお願い申し上げます。本日はありがとうございました。

以 上